

# 佐久市青少年健全育成審議会会議録（概要）

日 時 令和4年5月23日（月）  
午前10時～午前11時  
会 場 市役所南棟3階 大会議室

## 委嘱書交付

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 自己紹介（審議会委員・事務局）
- 4 役員選出 会長 堀内 ふき 副会長 高畑 一彦
- 5 あいさつ（会長・副会長）
- 6 会議事項

（1）佐久市有害図書類等の規制に関する条例について

- ア 経過について
- イ 条例の概要について

## 質疑応答

委 員：平成19年に佐久市内の有害自動販売機がすべて撤去されたが、その後、現状を維持するために、パトロール等、無届の自動販売機等が設置されているか調査は行っているのか。現状を教えてください。

事務局：佐久市には現在、有害自動販売機は設置されていない。佐久市生涯学習課青少年係には、佐久市少年センター専門補導委員が常駐しており、主に7月、2月の強調月間に合わせて、全店舗を調査している。また、街頭補導活動で地域を巡回しており、確認も兼ねて活動を実施している。地区選出の補導委員についても、街頭補導活動の中で店舗等を回り、適正に配慮されているか等の確認を行っている。

委 員：地域の子どもたちの様子を見守り巡回している際に、有害図書に関してもチ

ェックしているということか。

事務局：そうです。

会 長：有害自動販売機はいつどこで設置されるか分からない。佐久平地区・岩村田地区が都市化するなかでどう変化していくのか、今後どのようにしていくのか様子を見ていかなければいけない。今後も引き続き、市民一体となって有害自動販売機を設置させない運動を続けていく必要があると思う。また、それが設置された場合や、重要事項の審議が必要となった際には、会議を開催したいと思う。

## (2) 有害自動販売機の設置状況について

### 質疑応答

委 員：佐久・上小地域では設置台数は0であるが、諏訪・松本地域との差は、地域ごとの連携等によって、減らすことができる可能性はあるのか。減らすことができるのか。連携も必要ではないのか。意見を聞きたい。

事務局：佐久は、かなり強力な連携により対策できたと思う。他市の状況は確認していない。今後は、他市の状況も確認して、情報共有していきたい。

## 7 その他

委 員：青少年の状況、有害図書も含めて、どのような学生がどのような意識で勉強しているのか。有害図書等、現物を見るというより、ネット環境など、大人の目の届かないところで、どこまで入り込んでいるのか、さっぱり分からないので不安。学生や青年の人たちは、こういったことに興味があると思うの

で、どのような意識でいるのか。興味は誰にでもあるので、自然な心の発達の中で、抑えるのではなく、理解してあげる。こういった被害や事件性があるのか、そういったものにつながらないようにするのが私たちの一番心配することだと思う。

委員：子どもたちは自然とそういうことに興味がある中、有害図書がなくなったから良いのではないかとか、ビデオやネットの方はどうだろうか、それに関する犯罪を聞く中で、若者たちの状態を知りたいと思った。設置が0になったから良かったでは、心配な部分があると感じている。

委員：補導委員を始めた当初は、学生の関係で叩いた、タバコを吸った等が非常に多かった。最近では、スマホ関係、インターネットに関する犯罪が非常に増えてきている。小学校や中学校・高校を訪問しながら先生たちと話をする中で、先生たちが悩んでいることは、スマホ関係でいじめが増えてきているという問題である。今は、スマホやインターネットでいくらでもこういうことが見られる世の中になってきているので、そういったところでどうやってロックしていくか。インターネットやタブレットでどういかにやっていくのかこれから議論が必要だと思う。皆さんと良い意見を出して対応できればいいと思う。

会長：青少年の健全育成という風に考えれば、広く考えなければいけないと思う。別の部署等では考えているのか。他で議論はされているのか。

事務局：青少年のスマホの関係で、市は対応に苦慮している。小中学校の関係で **SakuKids** メディア **Safety** と教育委員会が連携してやっている部分がある。街頭補導活動をする中で、子どもたちが公園に集まってスマホやゲーム等をしており、補導委員が盗電の注意をしたという経過もあるが、ネットに関してはフィルタリングソフトを入れたり、親の携帯電話を使う場合は規制がか

かっていないのでフィルタリングソフトである程度制限をしていく等、そう  
いったことが必要になると思う。市の方で取組は難しいが、取り組んでいき  
たいと考えている。

会 長:SakuKids メディア Safety の方も小中学校の方も考えているということですが、課題が少しずつ広がっている。何に制限をかけるかということも変わっ  
てきていると思う。

最近の大学生について、コロナの関係で、ネットを使うのは当たり前になっ  
てきている。佐久大学は嬉しいことにほとんどが対面でできる授業である。  
オンラインの良さやネットを使うことの良さは感じているが、対面で行うと  
相手の顔が見えたりお互いの関係性が広がっていくので、私はなるべく対面  
で、どうしても時は、オンラインという風に考えている。都内の方もだい  
ぶ大学には行けるようになったみたいだが、ここ2年間くらいは入学しても  
いかれないような状況だったが。ネットが普及し、スマホでいろんなこと  
を見ることはよくある。LINE のグループに入れない、疎外感を感じる、苦勞  
している学生や、スマホでのいじめ、変な情報が流れていく、会って話せば  
中身が分かるのに、書いたものだけやスマホだけでお互いを言い合ったりす  
る、難しさを感じている。大学のカウンセリングの先生方や保健室等、なん  
でも相談室を設けているが、こういうような相談がとて多くなってきた  
る。健全かどうかというところで、18歳は大人になったということになる  
ので、大人扱いしながら、まだ子どもだなと思うところもある。私たちは、  
相手を尊重するということは、とっても大事だが、注意するところは注意し  
ていかなければいけない。最初にある程度物事を伝えて、途中でいろいろ言  
うと「聞いていない」とか「そんなこと言われていない」とか言われるので、  
オリエンテーションやガイダンス等は丁寧にする必要があると思う。尊重す

るからこそ、責任をもつ立場にあるということを使う。しかし、大人っぽい学生と子供っぽい学生がいる。4年生になると落ち着いてくるが、3年になり実習があつて変わると思うが、社会的に様々に関わることによって自分が成長してきているというのを感じている。なるべく早く外に出したり、地域の人々と交流する機会を作りたいと思っている。人間福祉や看護もそうだが、地域生活者交流実習や地域で育てられる、地域を大事にした実習というのがカリキュラムの中に必須で入っている。そういう中で、教員に叱られたりするよりも、大人と触れる、地域の人たちと触れる、地域の人から評価されたりすることが本当に学生たちが成長するのに良い機会になっていると思う。もっと大学も開けていきたい、学生たちが交流する機会を、今までは病院実習等が多いが、もっと普通に交流できるような、そうしないとほとんどの学生は成長しきれないなという風を感じる。感じていることを、こうしたらいいのではないかと考えるが、学生からは良いも悪いもいっぱい要望が出る。要望が出ることはいいことだと思っている。ろいろ工夫している。青少年から外れて大人になってきているわけだが、大学生とはいっても中学・高校の流れの中で大学がある、佐久大学はこの地域、長野県内より8割来ていただいているので、そういう意味では、この佐久の地域がどういう地域になっているのかというのが大学の雰囲気を変えていると思う。私自身も、この地域がとても好きである。私たち自身もいい地域にしていくことが青少年の健全育成に関係すると考えている。

## 8 閉 会